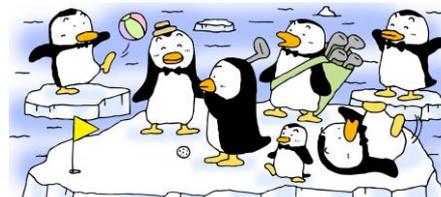


図書館ひろば



視覚障害者サービス部会学習会 報告

7月2日(水) 13:30~15:30 参加 22名

会場：市立図書館・中集会室

内容：音訳ソフトの現状

—合成音声を聞いてみよう—

講師：(株)東芝研究開発センター 知識メディアラボラトリー 黒田 由加氏

世の中は常に変化しており、視覚障害者を取り巻く情報入手の環境も、大きく変わってきました。

今回の勉強会では東芝が開発した合成音声による音訳支援システム「DaisyRings (デイジーリングス)」を使っただけのデモンストレーションが行われました。

主に、視覚・識字障害の方のために合成音声読み上げによるデイジー図書、音訳ボランティアや図書館・教育関係者等が簡単に作成できることを目指した、との説明でしたが、まさに時代の最先端！男性・女性・子供の声や英語やドイツ語など、いくつかの言語まで、自由(行ごと)に話者を切り替えて指定することもできるそうです。

ただ、その前に「テキスト化」の問題があります。DAISY 図書は人の声で、テキスト DAISY は合成音声で聞きます。将来的には「テキスト DAISY 図書」に移行することでしょうが、まだまだ読み間違えなども多く、人の手による校正に手間取ることもあるようです。

合成音声の技術が進歩して、人の声による音声訳は、必要なくなるのでしょうか？合成音声か肉声か、利用者がそれぞれの目的に合わせて選ぶ時代になりそうです。

いずれにしても、たくさんの情報が素早く音声訳されて、視覚障害者や識字障害の方々に届けられる時代が来ることを願っています。



今年の「図書館ひろば」は11月30日に開催

毎年2月に開催してきました「図書館ひろば」

今年は多くの方に参加していただきたく、11月開催となりました。たくさんの企画を予定して、皆さまのお越しをお待ちしております。詳細は今後つなぐ会 HP でお知らせします。

総会 報告

新しい年度のスタートにあたって、さる 4 月 19 日（土）に市立図書館で 2014 年度の総会を開きました。会員と賛助会員 11 名の出席でした。また 4 月から館長に就任された細谷館長も来賓としておいでくださいました。

今年度は最大事業である「図書館ひろば」の開催時期を見直し 11 月を予定しています。昨年好評でした、夏の「調べ学習講座」も 8 月に橋本図書館で開きます。

活動は 4 つの部会を中心にすすめます。つなぐ会の活動のようすは、この機関紙や昨年リニューアルしたホームページで逐次報告していきます。

部会活動 報告

視聴覚障害者サービス部会

5 月 1 日（木）10：00～12：00 市立図書館中集会室 参加者：6 名

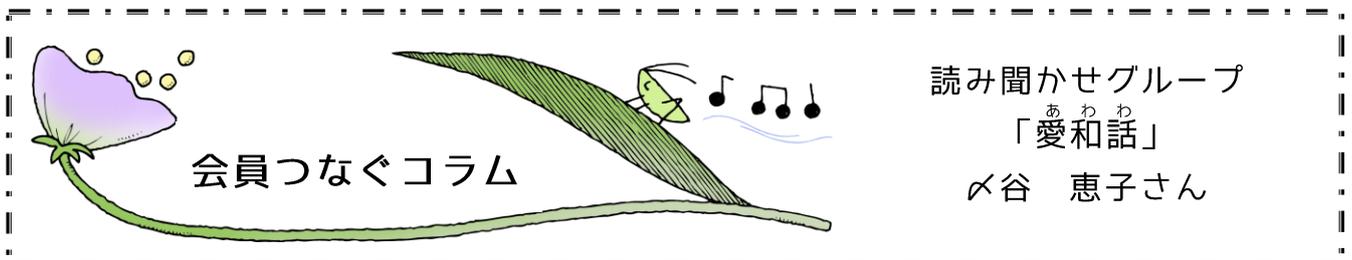
今年度の活動方針の話し合い

音訳の現状、図書館とのつながり

5 月 22 日（木）13：00～14：00 市立図書館中集会室 参加者：4 名

勉強会（音訳支援ソフトのデモ）について

7 月 2 日（水）13：30～15：30 市立図書館中集会室 参加：22 名（会員 5 名 市内図書館関係 6 名・録音奉仕会 11 名）



♪ちよち ちよち あわわ、かいぐり かいぐり とつとのめ、おつむてんてん、ひじぼんぽん♪

懐かしい手遊びですが、「ちょっとちょっと余計なことは言わないで、耳をかつぽじってよく聞いて、鳥のようによく見て、頭を使って、身体を使ってね」（諸説あり）という意味だそうです。

その教えのようにおはなしを全身で楽しんで欲しいとの思い、“あわわ”のやさしい響き、そして、愛と和みのあるおはなし会をつくりたいとの願いから“あわわ愛和話”が生まれました。メンバーは 6 名。各々、相模大野を中心に幼児から小学生を対象に絵本の読み聞

かせをして来ましたが、一昨年、高学年の子どもから大人に向けた朗読を学ぶ目的で集いました。

昨年 9 月、チェロリストの大川成子さんにご協力いただき、宮沢賢治の『セロ弾きのゴーシュ』をチェロ演奏とともに朗読しました。相模大野図書館に続き、橋本図書館や根小屋小学校でも公演の機会をいただき、回を重ねる度に作品が磨かれてきているように思います。次回は 9 月 20 日（土）相模台公民館で再演。また、10 月 4 日（土）には相模大野図書館主催大人向けのおはなし会で芥川龍之介の作品に挑戦します。お時間がありましたら、ぜひいらして来てください。

学校図書館学習会 報告

7月12日(土)第3回学校図書館学習会「聞いて！学校図書館のこと」が上溝中学校で開催されました。相模原市内の図書整理員以外にも、他市より参加者もあり盛会でした。

田邊さん(国分寺市中学校)、福家さん(稲城市小学校)、庄司さん(相模原市小学校)、3名の学校司書をパネラーに迎え、2013年3月にまとめられた「学校図書館担当職員の役割及びその資質の向上に関する調査協力者会議」報告書をベースに、学校司書の基本的な職務について、それぞれお話を聞きました。学校司書の多くの業務の中からパネラーに伺ったのは、環境整備、学校間・公共図書館との連携、オリエンテーション、レファレンス、読書推進活動、図書館活用した授業への参加について。印象的だったお話をいくつか紹介します。

環境整備について、校舎建て替えに伴って新しい図書館準備中の福家さんからは、参考になる具体的な学校図書館施設の基準が見つからない中、使いやすい書架とその配置などを試行錯誤されていること。

学校間連携では、庄司さんから中学校図書館へ自身が出向き見学、中学校にある本を紹介したおたよりを配布したこと。オリエンテーションについて田邊さんから、中学1年生に向けてパワーポイントを使って行い、オリエンテーション終了後に生徒の貸出状況一覧(分類のみ書名なし)を第1学年の先生に報

告をし、それは入学したての生徒のようすを知る良い情報になっていること。読書推進活動では、読み聞かせの後には子どもに感想を聞かないというのが定番だが、あえて聞いてみる？という話題に3名のパネラーが意見を交わし合う場面も。

今回の学習会で、パネラーから「業務の記録を取る」というキーワードが出てきました。この記録を振り返ることで、「何が足りないのか」「次に何をすべきか」が見えてくるようです。また学校図書館が提供すべき機能を「まだ知らないからできていないのか、それとも目をつぶって知ろうとしないのか、知っていても現場の状況や勤務条件などがあってできないのか、自分に蓋をしてやらないのか、ここには大きな違いがある。学校司書の職務について知識と意欲を持って、引き出しをたくさん持つべき」という意見は、参加者に大きく響いたようでした。この詳細報告は、つなぐ会「学校図書館を応援」のHPにアップする予定です。



図書館と市民をつなぐ会・相模原 会員募集中！

一緒に活動していただける正会員を募集しています。

また、賛助会員として協力していただける方も募集しています。

年会費 正会員 1000円(学生500円)

 賛助会員 1口 2000円



Interview 認定 NPO 法人らいぶらいぶ



6月18日、認定NPO法人らいぶらいぶさんの事務所を訪ね、活動のようすを広報担当の方に伺いました。

最初にらいぶらいぶさんの活動のひとつ「ブックチャンス」についてお聞きしました。相模原市内の子育て支援の場で、ブックチャンスボランティアが親子1組ずつに直接絵本の魅力を伝え、そのようすに合わせて絵本を読んだり、声かけをして、絵本を開く楽しい体験とともに、子育て支援のメッセージを伝えるプロジェクトです。このプロジェクトは2009年からスタートして、2011年からは「相模原市協働事業」として南保健センターでの活動も開始し、こちらは2014年4月から「相模原市親子コミュニケーション支援事業」として市からの委託事業となったそうです。反響は大きく、兄弟姉妹やお父さんも一緒に参加する方や、「こんな小さくても絵本に反応するなんて思いませんでした」と驚くお母さん、「4か月児検診の時は寝ちゃっていたのもう一度来ました」という方もいらした、とのことでした。市内で行われている4か月児検診で、保護者に渡している「ブックチャンスメモリーノート」が、この度全面リニューアルとのこと。新しいノートの完成が楽しみです。

他にも、らいぶらいぶさんが創設当時の事業、「絵本の中の料理を作る会」やこの4月に放送400回を迎えた、エフエムさがみで毎週放送中の「ブックライブ」についてもお話しを聞きました。残念ながら機関紙ではスペースが足りず載せられません。この続きは、つなぐ会のホームページで発信していきます。どうぞそちらをご覧ください。

これから夏には「絵本の中の料理を作る会」を、秋には「ビブリオバトル」を企画されています。詳細はらいぶらいぶさんのホームページなどでご確認ください。

インタビューに丁寧にお話して下さった、Sさん、Yさん、長い時間本当にありがとうございました。



編集後記

22日、ようやく関東地方は梅雨が明けました。今年はゲリラ豪雨が印象的でした。さて今回の機関紙は各部会で開催した学習会の報告がメインになりました。8月には「調べ学習応援講座」が開かれます。その報告は次号。この機関紙で紹介しきれなかった記事はHPにアップしていく予定です。「公民館図書室から」はお休みしました。(Y・N)